

Order and harmony? Beautiful Harmony?

2019年4月
眞鍋由比

新元号が令和と発表されました。街では発表された号外の奪い合いになり、朝日新聞は号外のプレゼントまで募っているフィーバーぶりには驚きました。この「令和」の出典は

*万葉集〔8C後〕五・八一五右序文「于時初春令月 気淑風和」

“初春令月 気淑風和”です。

「初春の正月の佳い月で、気は良く、風は穏やかである」という意味で、ちょっと正月ではないから季節はずれではという気がします。

現存するわが国最古の歌集万葉集は759年以後に成立しました。そのころの教養人が知っている中国、後漢の文人・張衡（ちょうこう）78-139の帰田賦の一節「仲春令月時和気清」を踏襲しているといわれています。

中国古典の名文へのオマージュだそうで、元号というシステムだけでなく漢字そのものも日本人が中国からもらったものなのですからお隣の国の影響は多大だったというわけですね。

中国より遠いアメリカでは今回の元号を

令和を“rei,” which can mean auspicious (縁起が良い) in traditional texts, and “wa” meaning peace (平和).」と、ブルームバーグ通信は、「“order (秩序),” and “peace (平和)” or “harmony (調和)”」と訳しました。

イギリスのガーディアン紙は、“decree (政令)” and “peace.” 大ヒットしたクイーンズの映画「ボヘミアン・ラプソディ」で散々笑わせてもらったBBCは「order and harmony」と訳しているそうです。

外務省は、新元号「令和」に込められた意味について英語で「beautiful harmony=美しい調和」としていますが、中国や韓国など、ご近所の国々との美しいハーモニーを奏でて共存共栄していきたいところです。

というわけで今月は中国の児童文学を。正月ではないけれど。
『月からきたトウヤーヤ』蕭甘牛作 岩波少年文庫 2017

中国の少数民族チワン族の創作民話。だれよりも履き心地のいい、長持ちするわらじをつくるわらじおばあさんは働き者。わらうちぼう（ポンポン）ぬのきりばさみ（チェンチェン） わらじゆみ（コンコン）と何十年も大切に使うて子どものように大切にしています。貧しくてわらじを買えない人には夜なべをした時間につくったものをただでプレゼントしたりするやさしいおばあさん。

あるとき月から白いひげの老人がおりにきて、わらじをつくってくれという。そしてそのわらじのおれいに不思議な種をくれ、そのタネからかわいらしい第四の子どもが生まれるのでした…。なぞをとけた者だけが次のステージに進める、歌と踊りの好きなチワン族。金や欲望に目がくらんだ王さまや大臣たちは謎を解けないけれど、困った人に親切にできる百姓は謎を解

けたりする、なかなか民話らしい物語。親思いの、月からきたとうもろこしの息子トウヤーヤが、目が見えなくなった母親（わらじおばあさん）のために虎や龍や獅子と戦って、そのうえ謎かけにも勝つという、まるでギリシャ神話のペルセウスや、スフィンクスの謎を解くオイディプスのようです。3つの道具（ポンポン、チェンチェン、コンコン）が役に立つところは桃太郎のお供の動物たちのよう。誰よりも孝行息子のトウヤーヤは美人の奥さんももらって帰りますが、そのあとの意地悪な王さまから無理難題を押し付けられ、殺されそうになってしまいます。平民のかなしさ。王さまや大臣の悪巧みに負けないよう、庶民は賢く気をつけなくちゃいけないかもしれませんね。

